

プレス公表（運転保守状況）

2019年11月14日

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	2018年 8月30日 9月6日 9月12日 10月3日 10月29日 12月4日 12月12日  2019年 1月31日 2月28日 3月5日 3月18日 4月12日 5月30日 6月18日 7月11日 8月22日	1号機	非常用ディーゼル発電機の過給機の軸固着について（区分Ⅰ）	<p><b>【事象の発生】</b>                      2018年8月30日、1号機非常用ディーゼル発電機※1を定例試験のために起動し確認運転を実施していた際、出力が低下したため手動停止しました。その後、要因を調査していたところ、2018年9月6日に当該非常用ディーゼル発電機の過給機※2にて、軸が固着していることを確認しております。                      その後、当該過給機については、メーカ工場へ持ち出して詳細調査を実施し、原因調査結果と再発防止対策についての報告書を取りまとめ、原子力規制委員会に提出しております。                      なお、当該過給機については、タービンブレードとロータシャフトに損傷・変形が確認されていることから、他の損傷部品と合わせて新製し復旧することとしました。</p> <p>※1 所内電源喪失時に所内へ電源を供給するためのディーゼルエンジン駆動の非常用発電機                      ※2 機関の排気ガスのエネルギーを利用してタービンを回すことにより、燃焼用空気を圧縮して機関に供給する装置（ターボチャージャー）</p> <p style="text-align: right;">（2019年8月22日までにお知らせ済み）</p> <p><b>【対応状況】</b>  <u>当該の過給機については、タービンブレードおよびロータシャフト等を新製し、当該非常用ディーゼル発電機への据え付けを完了しております。</u>  <u>その後、当該非常用ディーゼル発電機の試運転を実施し、機能・性能に問題がないことを確認しております。</u>  <u>なお、当該非常用ディーゼル発電機は11月7日に復旧し、待機状態となっております。</u></p>

プレス公表（運転保守状況）

2019年11月14日

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
②	2019年 10月18日 10月24日	—	大湊側補助ボイラー建屋2階電源室電源盤における火災について（区分Ⅰ）	<p><b>【事象の発生】</b> 2019年10月18日午後3時51分頃、大湊側補助ボイラー建屋2階電源室にて電源盤の受電操作を行っていた協力企業作業員が、電源盤からの発煙を確認したことから、速やかに当直長へ連絡を行い、当直長が火災と判断し、午後4時1分に119番通報を実施しました。</p> <p>その後、発火を確認したことから、午後4時7分に協力企業作業員が消火器による消火活動を行い、火が消えたことを確認しました。午後4時40分には、公設消防に鎮火を確認いただいております。</p> <p>火災が確認された電源盤の扉を開放し確認した結果、内部の部品（切替器操作用コイル）が焼損していました。詳細については、今後調査を行ってまいります。</p> <p>なお、本事象における外部への放射能の影響および、けが人の発生はありません。</p> <p><b>【その後の対応】</b> 10月23日より切替器操作用コイルを電源切替器ごと取外す準備（消火剤の清掃等）に着手しております。 その後、電源切替器の取外しを行い、メーカー工場へ持ち出して調査を行います。</p> <p style="text-align: right;">（2019年10月24日までにお知らせ済み）</p> <p><b>【メーカー工場での調査】</b> <u>焼損が確認された切替器操作用コイルにつきましては、電源切替器ごと取外し、10月29日からメーカー工場にて、主に以下の項目で詳細調査を行っております。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械部品（レバー、スプリング、シャフト等）の目視点検や動作確認、分解調査（寸法、変形の有無確認）</li> <li>・電気部品（切替器操作用コイル周辺の回路、補助リレー等）の目視点検および回路抵抗測定</li> <li>・その他 付着物、潤滑剤の成分分析</li> </ul> <p>本件につきましては、引き続き、詳細な原因調査を行ってまいります。</p>
③	2019年 11月8日	7号機	原子炉建屋東側エリア（屋外）におけるけが人の発生について（区分Ⅲ）	—